

「妻有地域の医療と介護を考える会」主催 第2回シンポジウム

令和4年2月5日（土）

診る場所、看取る場所

～医療・介護の支え手不足時代の地域包括ケアシステムを考える～

十日町病院 患者サポートセンター

角道祐一





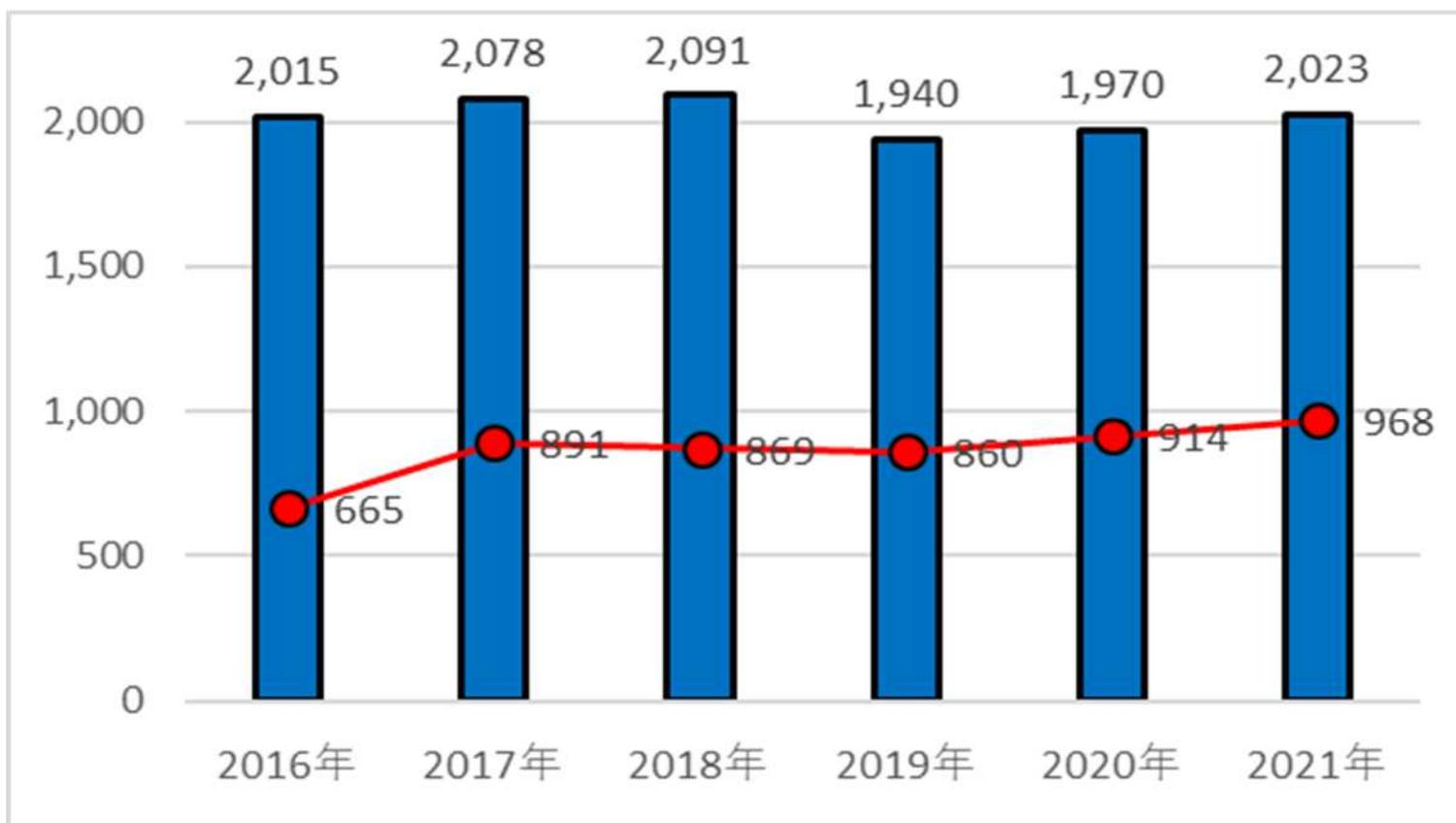
●人口	●高齢化率
十日町市：50169人	十日町市：40.0%
津南町：9057人	津南町：42.2% (2021.12月末)

妻有地域

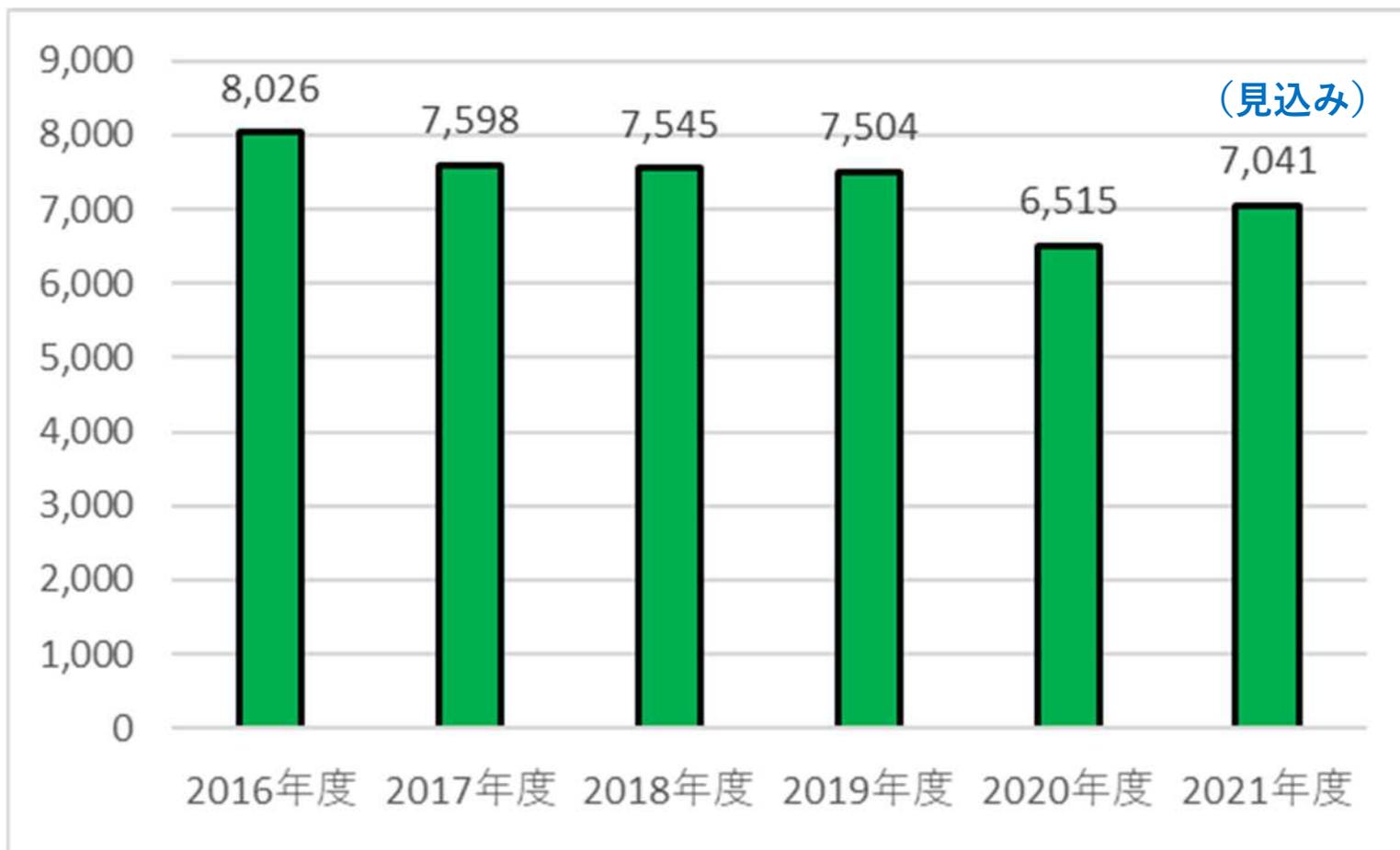


十日町病院の救急車受け入れ状況

棒グラフ：年間救急車受入件数 折れ線グラフ：内入院件数



十日町病院の救急患者数



患者サポートセンターのご紹介

- ・地域の医療機関との連携に関する業務全般
- ・紹介状（逆紹介状）・返書の管理及び送付
- ・地域の介護・福祉関係機関との連携に関する業務全般
- ・患者さんの転院・退院への移行に関する支援
- ・医療相談窓口
- ・ベッドコントロール



患者サポートセンターのご紹介

- ・地域の医療機関との連携に関する業務全般
- ・紹介状（逆紹介状）・返書の管理及び送付
- ・地域の介護・福祉関係機関との連携に関する業務全般
- ・患者さんの転院・退院への移行に関する支援
- ・医療相談窓口
- ・ベッドコントロール

病院・開業医の先生
方へのご挨拶



患者サポートセンターのご紹介

- ・ 地域の医療機関との連携に関する業務全般
- ・ 紹介状（逆紹介状）・返書の管理及び送付
- ・ 地域の介護・福祉関係機関との連携に関する業務全般
- ・ 患者さんの転院・退院への移行に関する支援
- ・ 医療相談窓口
- ・ ベッドコントロール

病院・開業医の先生
方へのご挨拶



社会的処方連絡会議
の定期開催



患者サポートセンターのご紹介

- 地域の医療機関との連携に関する業務全般
- 紹介状（逆紹介状）・返書の管理及び送付
- 地域の介護・福祉関係機関との連携に関する業務全般
- 患者さんの転院・退院への移行に関する支援
- 医療相談窓口
- ベッドコントロール

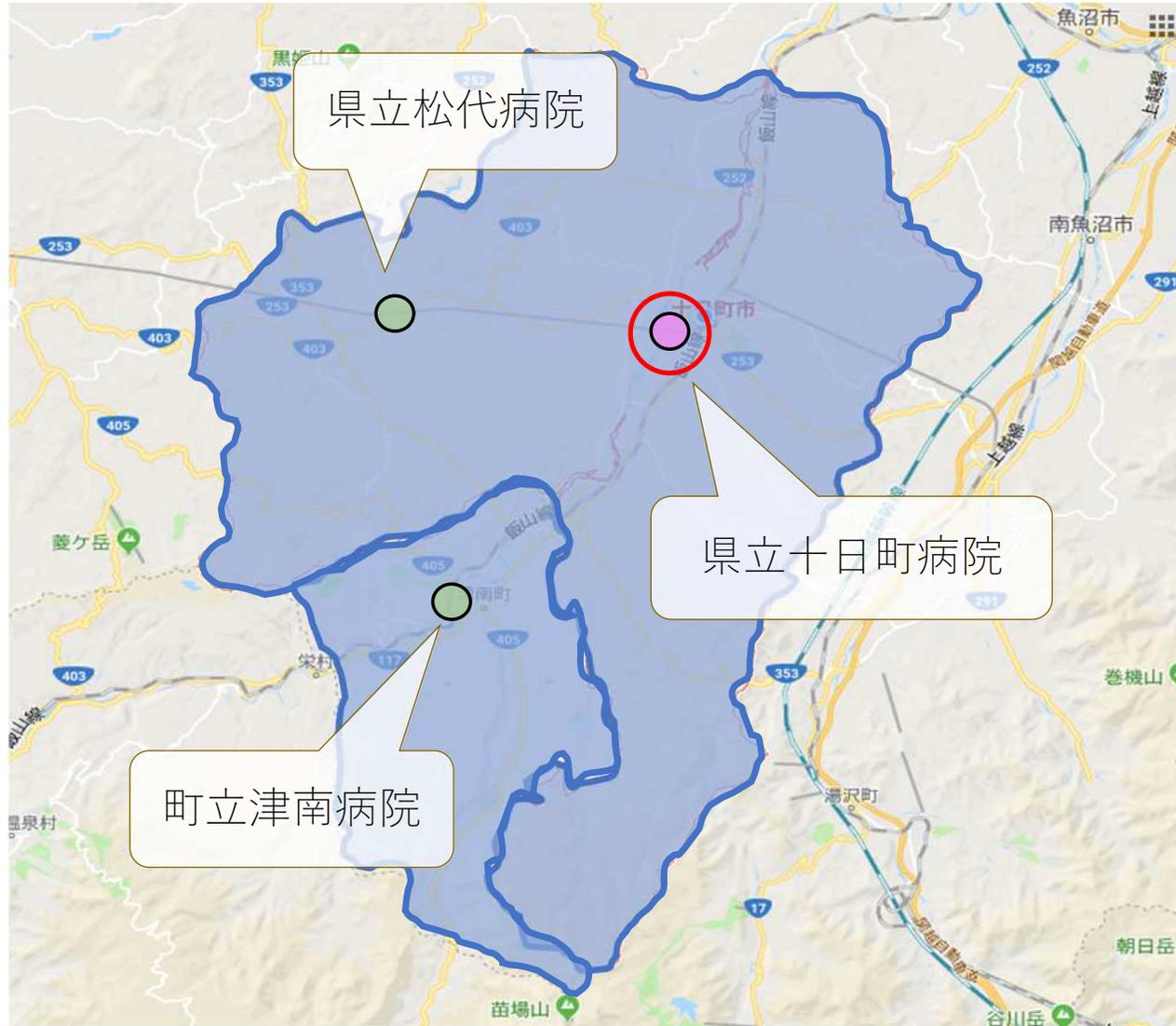
病院・開業医の先生
方へのご挨拶



社会的処方連絡会議
の定期開催



十日町圏域の病院



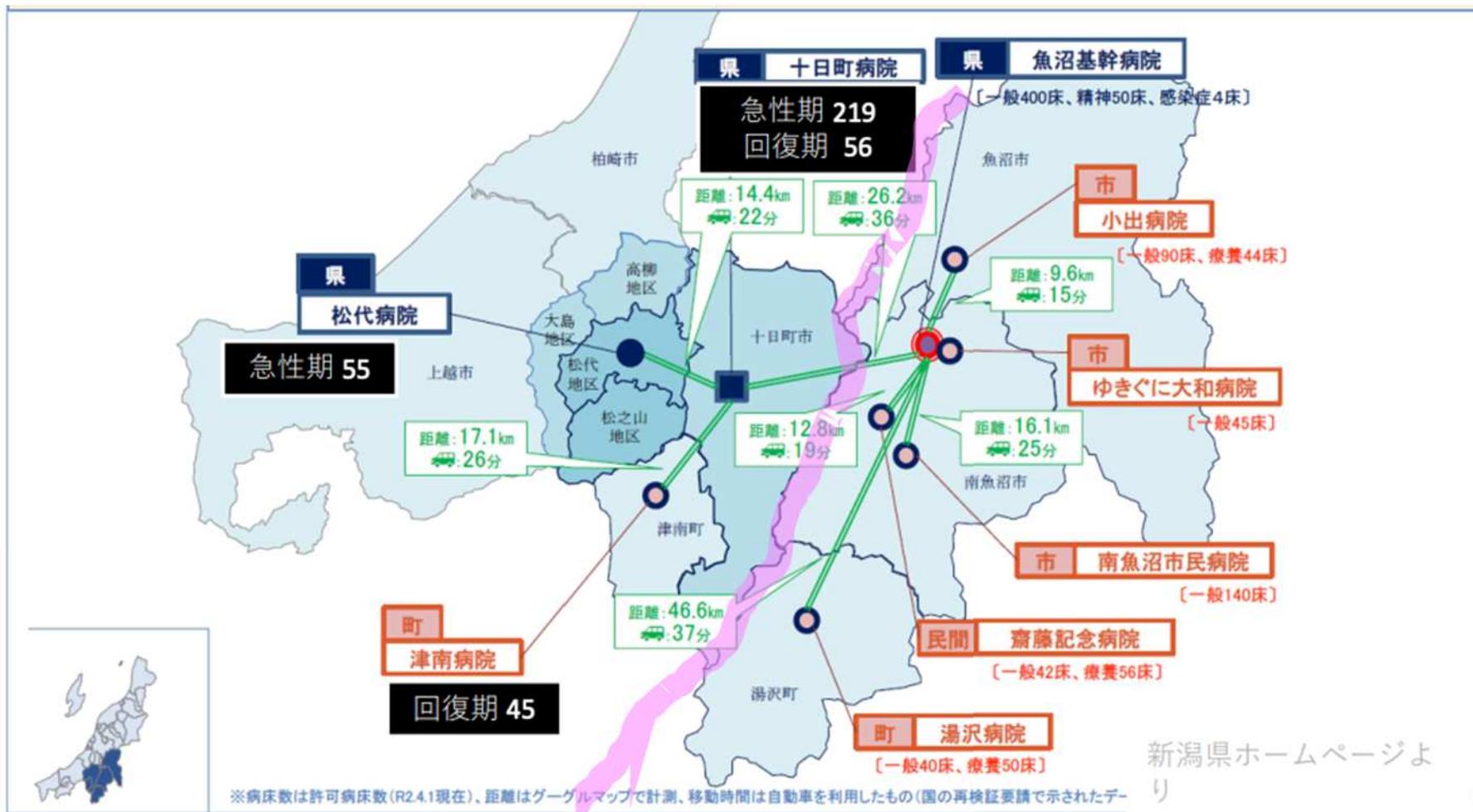
十日町病院の平均在院日数

一般病棟（192床）：約2週間

地域包括ケア病棟（58床）：約3～4週間

入院患者数：160～210人/250床

十日町圏域には慢性期病床が全くない

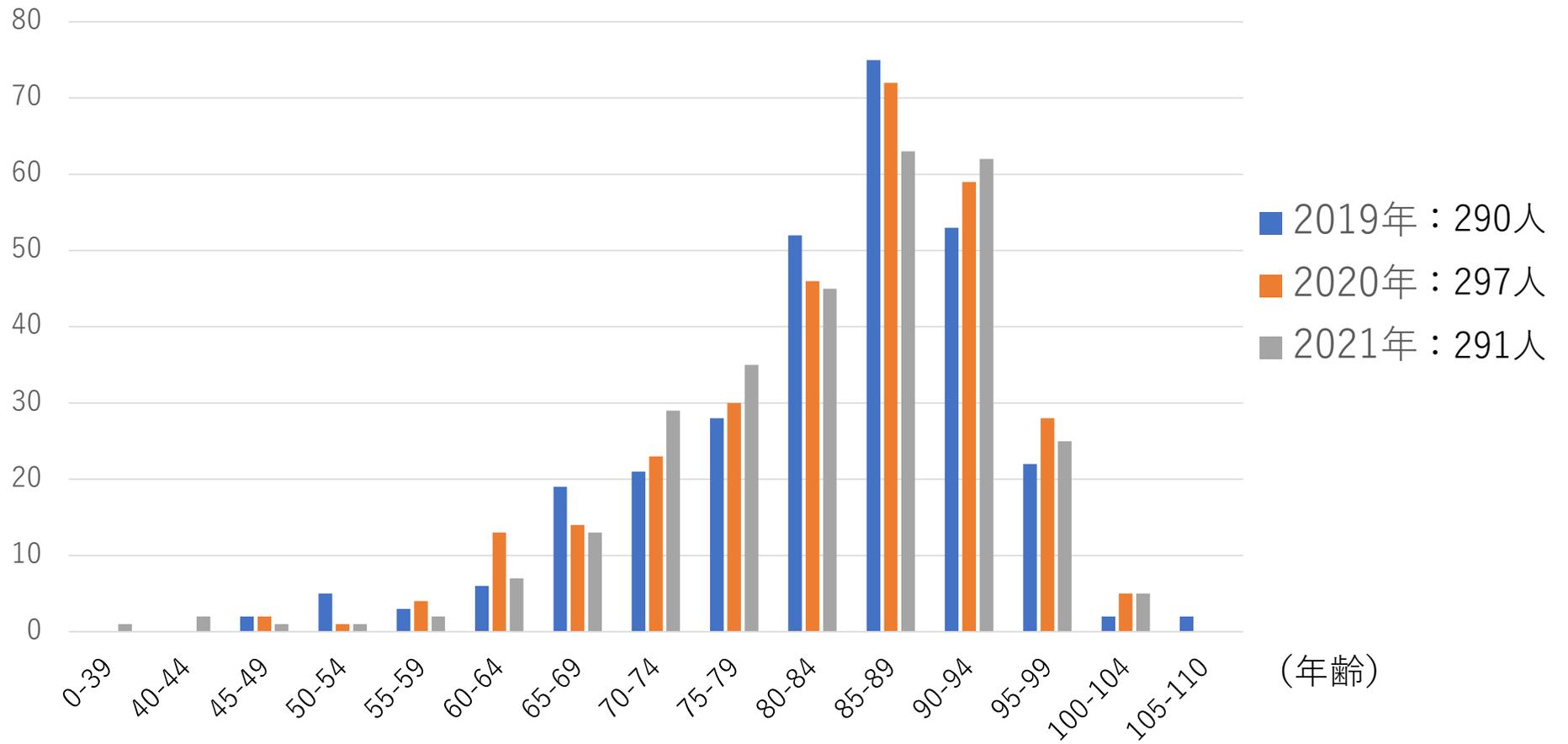


診る場所、看取る場所

～医療・介護の支え手不足時代の地域包括ケアシステムを考える～

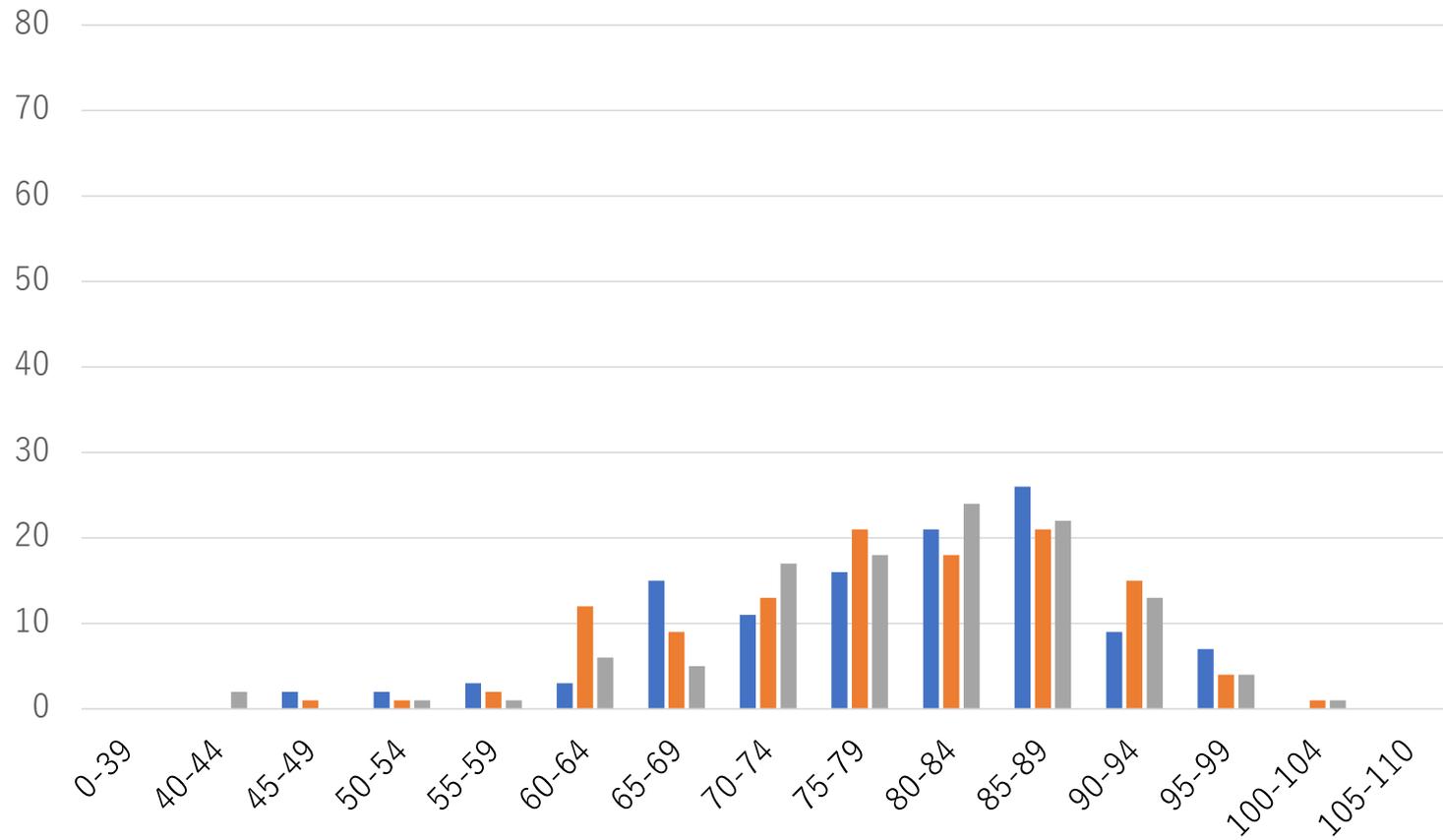
十日町病院の死亡退院患者（2019～2021年）

(人)



十日町病院のがん死亡退院患者（2019～2021年）

(人)



■ 2019年：115人
■ 2020年：118人
■ 2021年：114人

(年齢)

緩和ケアを担当する医師：主治医

✓ 緩和ケア研修受講済み医師：内科9人、外科2人、婦人科1人

当院の緩和ケアチーム

- ・ 医師（内科・外科・麻酔科）
- ・ 看護師（がん性疼痛看護認定看護師・緩和ケア認定看護師・がん化学療法看護認定看護師）
- ・ 薬剤師
- ・ 管理栄養士
- ・ リハビリ（PT・OT・ST）
- ・ ソーシャルワーカー



病棟・病室



リハビリセンター



ACP (アドバンス・ケア・プランニング)

人生の終わりまで、あなたは、どのように、過ごしたいですか？



もしものときのために

「人生会議」

～自らが望む、人生の最終段階の医療・ケアについて話し合ってみませんか～

11月30日（水）（11月30日）は人生会議の日

話し合いの進めかた（例）

誰でも、いつでも、
命に関わる大きな病気やケガをする
可能性があります。

命の危険が迫った状態になると、
**約70%の方が、
医療やケアなどを自分で決めたり
望みを人に伝えたりすることが、
できなくなると言われています。**

自らが希望する医療やケアを受けるために
大切にしていることや望んでいること、
どこでどのような医療やケアを望むかを
**自分自身で前もって考え、
周囲の信頼する人たちと話し合い、
共有することが重要です。**



もしものときのために、あなたが望む医療やケアについて、
前もって考え、繰り返し話し合い、共有する取組を
「人生会議（ACP：アドバンス・ケア・プランニング）」
と呼びます。

あなたの心身の状態に応じて、かかりつけ医等からあなたや
家族等へ適切な情報の提供と説明がなされることが重要です。

このような取組は、個人の主体的な
行いによって考え、進めるものです。
知りたくない、考えたくない方への
十分な配慮が必要です。



詳しくは、厚生労働省のホームページをご覧ください。

https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_02783.html



命の危機が迫った状態になると、
**約70%の方が、医療やケアなどを
自分で決めたり望みを人に伝えたり
することが、できなくなると
言われています。**

**自分自身で前もって考え、
周囲の信頼する人たちと話し合い、
共有することが重要です。**

人生会議

ACP (アドバンス・ケア・プランニング)

患者のこれまでの人生を家族と一緒に振り返り、その価値観や死生観、考え方などを探りながら、終末期に関するケア全体の目標や具体的な治療・療養場所などについて、早い時期から話し合いをしていくプロセス

- 死は身近なもの
- 診る場所、看取る場所は限られている
- 安心して地域で暮らし最期を迎えられるために、
私たちができること